

群馬県女子体育連盟だより

第165号

2015年 11月発行

<本部> 〒 371-0051 前橋市上細井町1700-8 松本富子

TEL 027-234-73190 090-7175-3366 HP gunma-joshitaiiku.jimdo.com

*HPを開設しました。アドレスをコピーしてご覧ください。

小学校 表現運動公開授業 授業研究会

今年度より、群馬県学校体育研究会と群馬県女子体育連盟の共催により公開授業、授業研究会が行われることになりました。今年度は、高崎市での開催となりました。

11月19日(木)、高崎市立豊岡小学校1年2組、中島桃子教諭による「表現リズム遊び～トントントンでなりきろう～」の公開授業が行われました。子どもたちが全身を使って気に入った動物になりきり、友達と一緒に楽しんで表現できるように、先生は、身近な題材を取り上げ、わくわくタイム(体ほぐしの運動)を取り入れるなど、いろいろな工夫をされていました。元気いっぱいの子どもたちは、思い思いに体を動かして、まねっこ遊びや表現遊びを楽しんでいました。

表現リズム遊び 「トントントンでなりきろう」

学習活動(○)と教師の支援(・)

- 1 本時のやくそくとめあて
 - 大きくうごいて、なりきろう。
 - ともだちのよいところを
まねしてみよう。
 - ・みんなのおへそが動くようにね。
 - ・コーンの中で動くよ。
- 2 わくわくタイム
 - わくわく体操
 - バナナおに
 - ・おもしろバナナに変身するよ。
- 3 なりきりタイム
 - ①トントントン何の音？
 - ・(自然の音)・花火の音・波の音
 - ・お化けの音
 - ②トントントン何の音？
 - ・ぐにゃぐにゃタコさんの音
 - ・大きな鼻のゾウさんの音
- 4 はっけんタイム
 - 1年2組ジャングルたんけん!
- 5 活動の振り返り



わくわくタイム バナナおに



なりきりタイム
トントントン何の音



大きなお鼻の
ゾウさんの音



はっけんタイム
1年2組ジャングルたんけん

ライオンにしようよ

うん、ガオーってね



授業研究会

開会行事、授業説明、質疑応答の後、グループ別研究協議を行いました。

1 あいさつ

群馬県学校体育研究会	後藤 章	副会長
群馬県女子体育連盟	松本 富子	会長
高崎市立豊岡小学校	飯塚 実	校長

2 研究協議 <授業説明 授業者>

・表現遊びは、運動が苦手な子も見本になれる。5時間の単元計画で学習の流れが決まっていたので、子どもたちも見通しをもって取り組めた。子どもたちは、「バナナおに」が大好きだが、表現より鬼ごっこに夢中になってしまう子もいた。授業を進めることが精一杯で、子どもを見取ることができなかった。

<質疑応答>

Q 同じ流れの授業の3時間の違いはあるか。

A 授業の流れは同じだが、表現するものが「〇〇の動物」から「〇〇しているさる」など動作の条件を入れたことで動きが大きくなった。

Q 1年生なので、あえてたくさんの運動を取り入れたと思うが、「〇〇タイム」の時間設定で工夫したことはあるか。

A メインは「発見タイムだが」初めは「わくわくタイム」を長めにした。2、3時間目は後半の「発見タイム」を長くした。

<ワークショップ グループ意見>

○「おへそを動かそう」と、大きい動きにするための確認がよかった。動物の鳴き声やジャングルの様子が分かる音響のCDを聞いたことでイメージしやすかった。よい動きを全体で共有するとよかった。

○運動量があって楽しそうだった。子どもの動きを丁寧にひろっていた。太鼓のルールが決まっていた子どもの動きにメリハリがあった。「発見タイム」は、もっと時間を取れるとよかった。

・ペアで見せ合ったときは、2つのペアが接近して、動きが小さくなってしまったので、離れて見るように場所を区切るとよい。動きができれば、「歩いてやってみよう」「走ってやってみよう」などと声かけをすることで動きが広がる。みんなで、お手本になる子を囲んで発表させると、全体で共有できる。

3 指導講評 松本会長

○「大きく」の一人ひとりのイメージに違いがある。低学年は自分の手足をそのまま動物の手足とするので模倣に停滞がち。中・高学年になると特徴を誇張して動き、比喻へと成長していく。活動時に子どもがくっつき合うときは、互いに距離を取って、大げさに、特徴のある動きでやったふりをさせる。それが「表現」であることを押さえ、「本当にやらないけど、本当にやった以上に感じが出た」と児童が思えるようにする。リズム系のダンスは、「おへそを動かす」と指示するだけで動きが変わるが、表現はそれだけでは不足するので、多様な運動ができるように言葉かけし、外せない特徴を引き出すようにする。また、大きなものと小さなものなど対極のものをやるとよい。

○年間指導計画では、低学年の1、2年またがって1回でもよい。時間をかけなくても15分くらいあればよい。子どもの気持ちを解放することが大切。中学年はあまり子どもっぽいものはやりたがらない。やることに意味を見いだせるものがよい。高学年男子は動かないと思うのは大人の思い込み。男子の方がダイナミックに動く。普段から実践例を参考に題材探しをする。時間は4時間くらいでよい。

○感情豊で、子どもを引きつける力があつた。

・「わくわくタイム」はBGMがその役割を果たし、「バナナおに」でもわくわくバナナになればいいので、鬼ごっこを楽しんでしまっても、表現の足がかりとなる。

・「なりきりタイム」の「トントントン何の音」は、「発見タイム」の導入になっている。

動物は固定観念が強く四つ足のまま動きが広がらないので、いろいろな場面を想定して声をかけ「発見タイム」へつなげるために一歩進めてほしい。たとえば「ウサギ→びよんびよん跳ねる→伸びをしているよ→高いところに登っていった→追いかけて逃げていよう→見つからないようにジューッと隠れている→鼻をひくひく→耳がたれているよ。」など、体の部分や動きを変化させる体験を広げるための声かけが必要となってくる。「発見タイム」の時間をたくさん取るよう時間配分を工夫してほしい。

4 謝辞 群馬県女子体育連盟

篠原 妙子 副会長

(文責 佐藤)

